

日本労働年鑑 1951年版(第23集)  
The Labour Year Book of Japan 1951

第一部 労働者状態

第六編 農家の状態と農民の生活

第一章 農家

第三節 新設農家

第131表によつて、戦後新にできた農家の性格を見よう。本表によれば、内地において入植による新設農家戸数は六七、二七六戸で、そのうち自作農は六〇%強を、小作農は三二%強をしめている。経営面積から見れば、五反未満の零細農家が三八、九三八戸で全体の五八%をしめ、とくにその中でも三反未満のものが多い。五反から一町までの農家は一九、一四四戸で二八%であるから、入植による新設農家の八六%は一町以下の小経営であり、また自作農がその半ば以上をしめていることがわかる。

つぎに分家帰農による新設農家三一一、四九五戸のうち、自作農は五一%、小作農は二五%をしめている。経営面積の広狭別に見れば五反未満の農家は全体の八五%弱をしめ、とくに三反未満が圧倒的に多い。五反から一町までの農家は全体のわずか一二%にすぎず、それ以上の耕地を経営する農家の比重はきわめて軽い。

以上によつて見れば、戦後の新設農家は、その大半が五反以下の自作農または小作農家であることがわかる。

新設農家の経営面積の変動理由等については別表を見られたい。

日本労働年鑑 第23集／1951年版

発行 1951年1月1日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年2月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1951年版(第23集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)